

甲斐市立玉幡中学校 自己評価書

令和8年1月30日(金) 作成

校長 「 樋川 和之 」 記述者 職名(教頭)「 長田 道也 」

学校教育目標 「ふるさとを愛し、高い知性と豊かな情操、たくましい意志と
創造的な個性をもつ心身ともに健全な生徒の育成」

学校経営方針

- ・ 社会に開かれた教育課程を実現するための適切な教育課程の編成・実践に努める。
- ・ 自ら学ぶ習慣を育てる学習方法の改善と、その指導に努める。
- ・ 基本的な生活習慣の確立と、自他の尊重を重んじる「心の教育」を推進する。
- ・ 奉仕活動・ボランティア活動を中心に据えた特色ある学校づくりに努める。
- ・ 健康・安全指導の充実を図り、生涯体育の基礎づくりを目指す。
- ・ 生徒理解に努め、生徒指導・教育相談・防災教育等の充実を図る。
- ・ 小中連携教育の推進を図り、学校・課程・地域の連携を深め、地域とともに歩む教育の推進に努める。
- ・ 学校の教育活動全体を通して、体系的なキャリア教育の推進に努める。

I 全体評価

今年度より、アンケート集計方法が変わった。質問項目は、昨年度と同様の内容を多く採用している。総合評価は、肯定率100%が14項目、90%以上が19項目などと、どの項目も肯定率は非常に高い状況である。最頻値はBの評価が多くなっている。

- ・ 【I学校教育目標】は、4項目のうち3項目がA Bの評価が100%であり、残り1項目も97%であり、非常に高い肯定率である。
- ・ 【II学校運営】は、8項目のうち1項目がA Bの評価が100%であり、6項目がA Bの評価が90%以上と高い肯定率である。
- ・ 【III学習指導】は、7項目のうち2項目がA Bの評価が100%であり、4項目も89%以上と高い肯定率である。

教職員⑱【あなたは、家庭学習(宿題や課題)と授業が有機的に結びつく指導を行っている】については、全体の37%がややそう思わないと回答している。今後は、ICTなどを活用した宿題や課題について検討していかなければならない。

- ・ 【IV生徒指導】は、6項目のうち4項目がA Bの評価が100%であり、残り2項目も97%と非常に高い肯定率である。
- ・ 【V地域との連携】は、6項目のうち2項目がA Bの評価で100%であり、3項目もA Bの評価は88%以上と高い肯定率である。

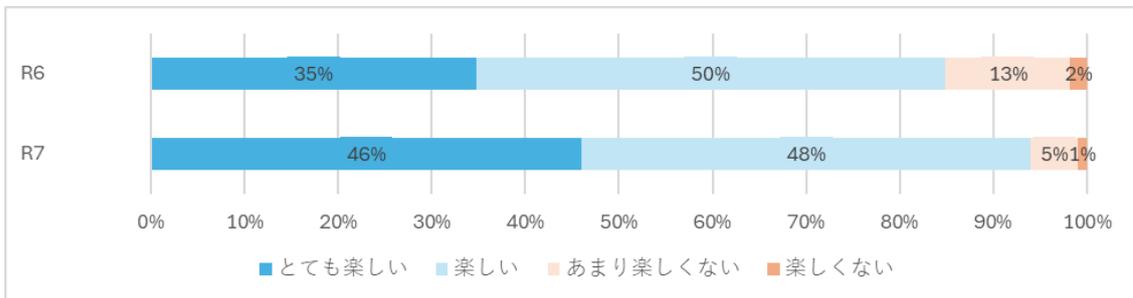
教職員⑳【あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている】については、全体の30%がややそう思わないと回答している。職場体験や人権教育など地域の資源を活用した授業を行っているが、今後もより良い授業が展開できるよう検討していかなければならない。

- ・ 【VI学校の特色】は、4項目のうち2項目がA Bの評価が100%であり、残り2項目も94%と非常に高い肯定率である。
- ・ 【VII創甲斐教育】の項目では、3項目ともにA Bの評価が91%以上と高い肯定率である。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）	
I 学校教育目標に関して・学校経営について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・4項目のうち3項目については、A Bの評価の合計が100%である。教職員の教育活動への取り組む意識の高さがみられた。学校教育目標の実現を目指し、職員の協働を通じて教育活動を推進してきたことを表していると考ええる。 ・教職員④【あなたの学校は、職場の福利厚生や健康増進について配慮がなされている】についての肯定的評価についても、昨年度の91⇒97%に改善している。 ・肯定的評価の値は高いが、「とてもそう思う」から「そう思う」への割合が増えている。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育活動もコロナ禍後、ほぼ全ての活動が戻り、ここまで中で、行事の精選や働き方の見直しも同時に進めてきている。しかし、現状を振り返ると教職員の業務量が大幅に軽減しているという訳ではなく、教職員が時間的な面で『ゆとり』をもって業務に取り組んでいるとは十分には言えない状況である。時間的な面での『ゆとり』が精神面での『ゆとり』につながり、そのことで、教育活動の充実を目指していかなければならない。また、各々がワークライフバランスや健康増進についてより考えられるようになることを目指したい。今後も、業務改善を積み重ねると同時に、職員全体でPDCAサイクルを活かした教育活動の実践を進めていけるよう、組織的に取り組んでいきたい。
II 学校運営について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・8項目のうち1項目がA Bの評価が100%であり、6項目がA Bの評価が90%以上と高い肯定率である。 ・教職員⑧【あなたは、職務上「報告、連絡、相談、確認」を行っている】については、A評価の割合が一番高い。 ・教職員⑤【危機管理マニュアル】や教職員⑥【ICTの活用】・教職員⑩【校務支援システム】・教職員⑪【働き方改革】等にB評価が多く、【校務支援システム】については、全体の18%の教職員が十分活用できていないと回答している。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員⑧【あなたは、職務上「報告・連絡・相談・確認」を行っている】は、肯定的な評価であるが、教職員⑤【危機管理マニュアル】については、『ややそう思わない』の回答が若干ある。日頃から災害時の対応について、また、事件などが起こった際の対応について、各教職員の危機管理意識と対応力が重要だと考え、意識の向上を図っていく。 ・教職員⑩【校務支援システム】については、活用が十分にできていない教職員がある。来年度には次期校務支援システムがスタートする。事前の研修を十分に行い、4月からのスタートへ備えたい。 ・教職員⑪【業務の効率化等の働き方改革を意識して職務にあたっている】のA B評価が高い。今後も業務改善を推し進められる一つの要因となったと推察できる。
III 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・7項目のうち2項目がA Bの評価が100%であり、4項目も89%以上と高い肯定率である。 ・教職員⑬【学びの意欲を喚起するため、授業のめあてを示し、おわりに振り返りの過程を設けている】・教職員⑮【指導と評価の一体化に努めた授業を行っている】・教職員⑰【協働的な学びを取り入れた授業を行っている】・教職員⑱【計画的に道徳の時間が実施され、心に響く授業が行われている】90%以上の肯定的回答である。 ・教職員⑱【家庭学習と授業が有機的に結びつく指導を行っている】の項目は、37%がややそう思わないと回答している。

・教職員⑯【ICTを効果的に活用した授業を行っている】においては、昨年度より大幅に改善されている。

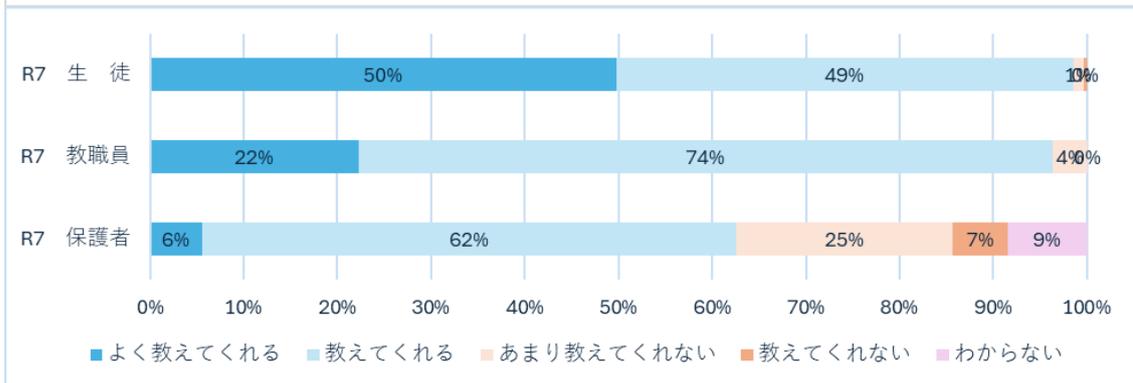
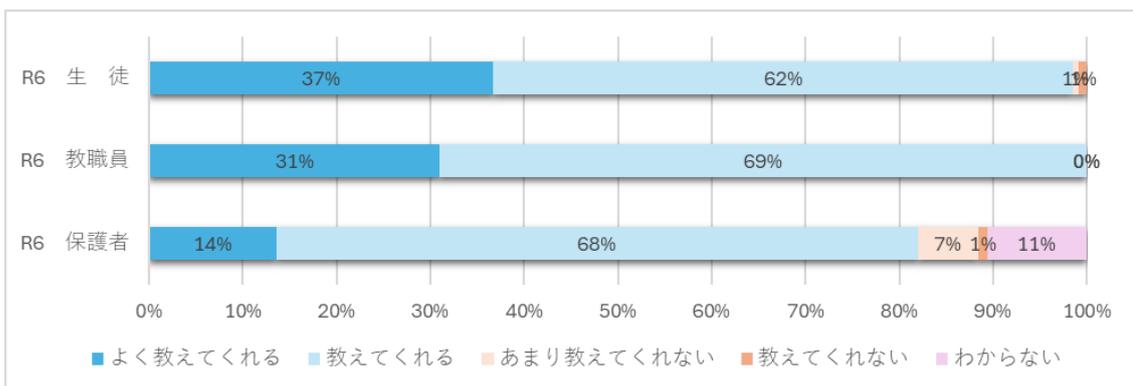
・生徒④【学校の授業は楽しいですか。】



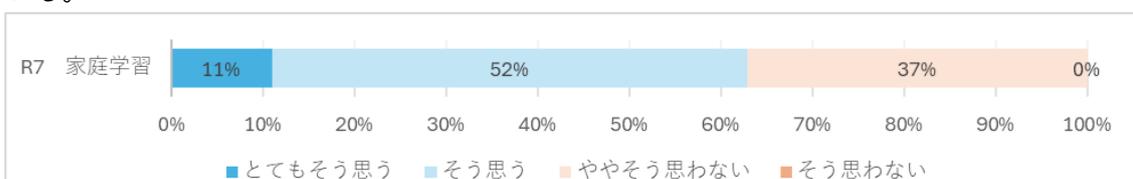
※全校では、昨年度の85%から今年度94%、授業が楽しいと回答している。

関連項目のAB評価による比較

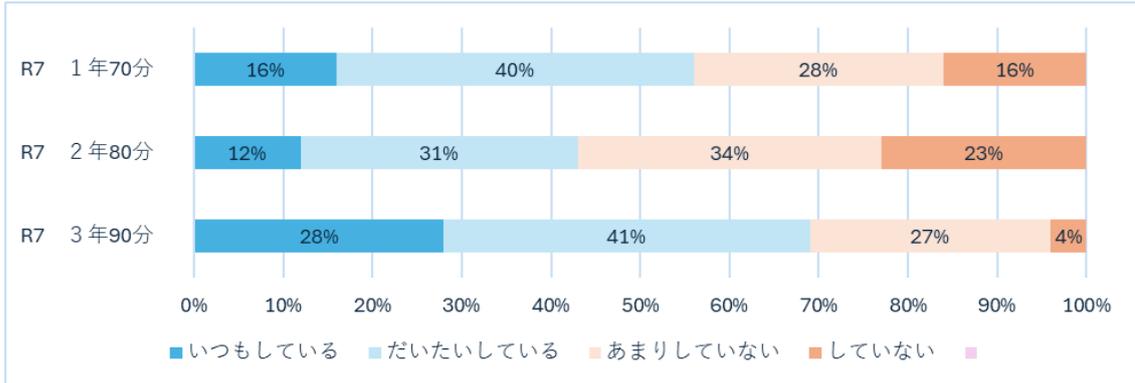
- ・生徒⑤【先生はよく勉強を教えてくださいますか。】
- ・教職員⑭【個に配慮した基礎・基本の定着を図る授業を行っている。】
- ・保護者⑪【学校は熱心に授業に取り組んでいると思う。】



・教職員⑯【あなたは、家庭学習（宿題や課題）と授業が有機的に結びつく指導を行っている。】

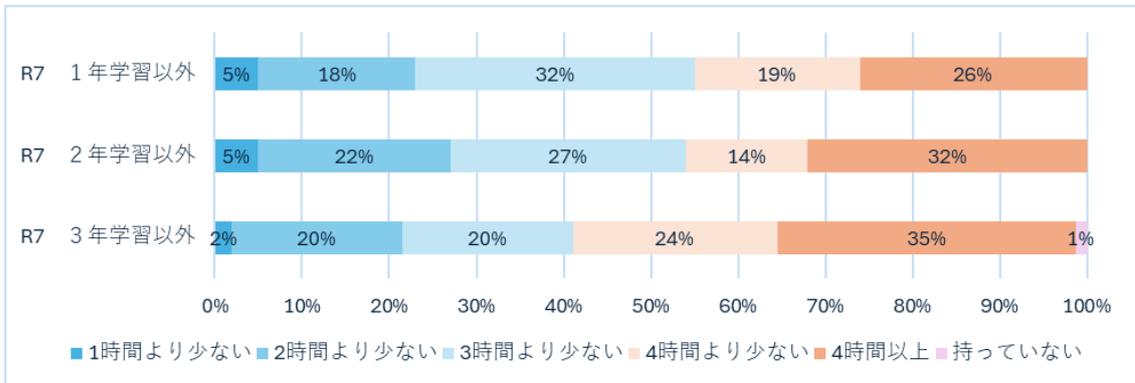


・生徒⑨【月曜日から金曜日までは、学校以外で学年の目標時間の勉強をしていますか。】



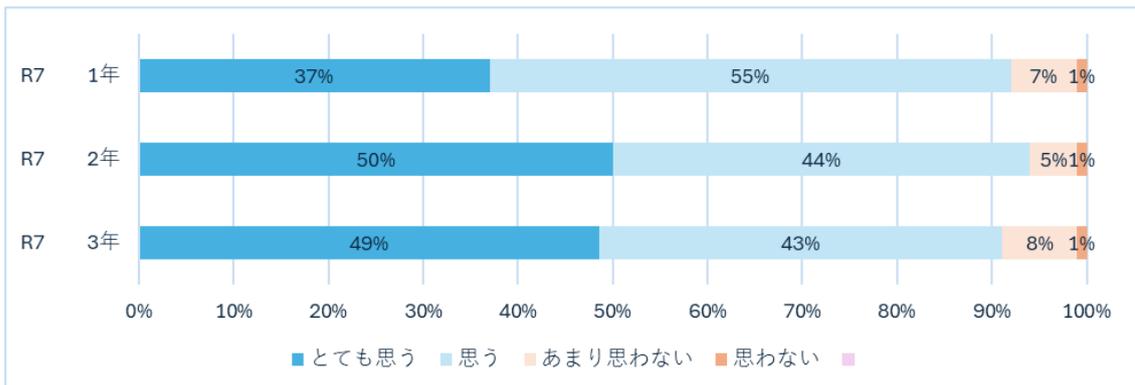
※AB 評価 1年生 56%、2年生 43%、3年生 69%。

・生徒⑩【スマホ/タブレット/ゲーム機/パソコンを学習以外で1日あたりどのくらいの時間使いますか。】



※2時間以上している生徒が、1年生 77%、2年生 73%、3年生 79%である。

・生徒⑪【学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは、勉強の役に立つと思いますか。】



※AB 評価は、全体で 92%になっている。

改善策

・生徒①【学校の授業は楽しいですか】は、昨年度の 85%から今年度 94%へ大きく向上している。生徒⑤【先生はよく勉強を教えてくださいか】の項目において、AB 評価の合計で比較すると、生徒のアンケートで 1年 99%、2年 97%、3年生 100%ととても高い数値を示している。教師と保護者の AB 評価（肯定的な評価）も同様に高くなっている。今後もより多くの生徒が、『わかる』『楽しい』と感じる授業を提供していきたい。

・生徒⑨【月曜日から金曜日までは、学校以外で学年の目標時間の勉強をしていますか】

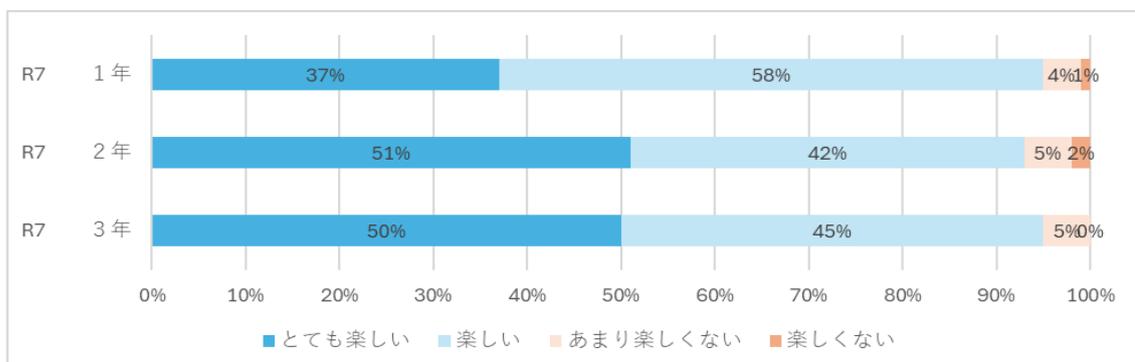
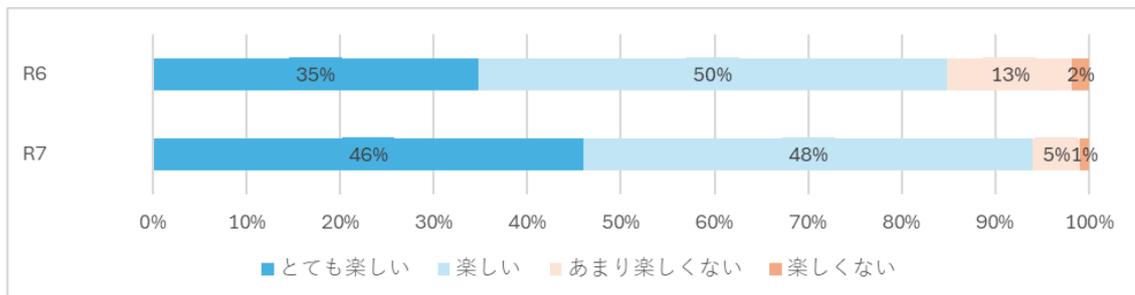
の観点では、「A勉強をいつもしている」「Bだいたいしている」と回答した生徒は1年生56%、2年生43%、3年生60%であった。

- ・生徒⑩【月曜日から金曜日まで家や図書館などで一日あたりどのくらいの時間読書を行いますか。】は全校で「D全くしない」と回答した生徒が1年生36%、2年生38%、3年生38%であり、昨年度より改善傾向にある。
- ・生徒⑩【スマホ/タブレット/ゲーム機/パソコンを学習以外で一日あたりどのくらいの時間使いますか。】（保護者も同様）について、2時間以上している生徒が、**2時間以上している生徒が、1年生77%、2年生73%、3年生79%であり、昨年度の1年生67%、2年生88%、3年生75%より平均でほぼ変わっていない。**今後も家庭での学習習慣の確立と学習の内容についても指導していきたい。
- ・生徒⑩【ICT機器を使うのは、勉強の役に立つ】と92%が肯定的回答をしている。教師の自己評価では、ICTの効果的活用は89%肯定的回答であったが、まだ十分に活用できていないとの回答もあるため、これからも教師はICTを使う授業を計画的に実施し、生徒の理解力を向上させる、よりわかる授業をつくっていくことが必要である。
- ・今年度は、不登校生徒や怪我や入院など学校に来られない生徒に対して、積極的にクロームブックを活用し、リモートでの授業参加を行ったことは大きな成果である。これからも柔軟に生徒・保護者の要望に対応していきたい。

IV 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

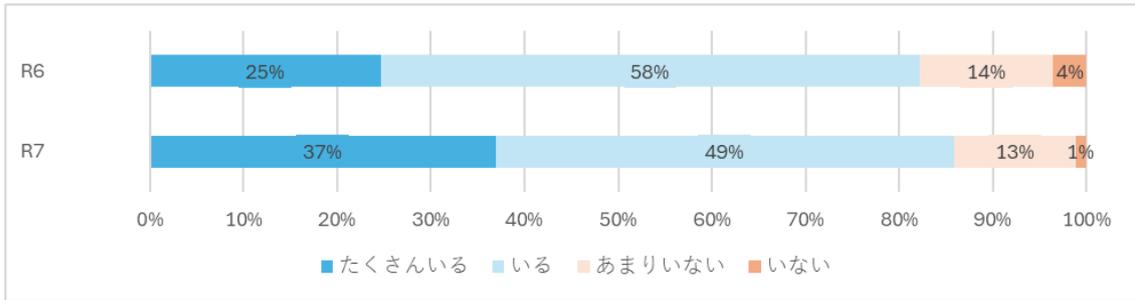
達成状況
・6項目のうち4項目がA Bの評価が100%であり、残り2項目も97%と非常に高い肯定率である。

- ・生徒④【学校の授業は楽しいですか。】



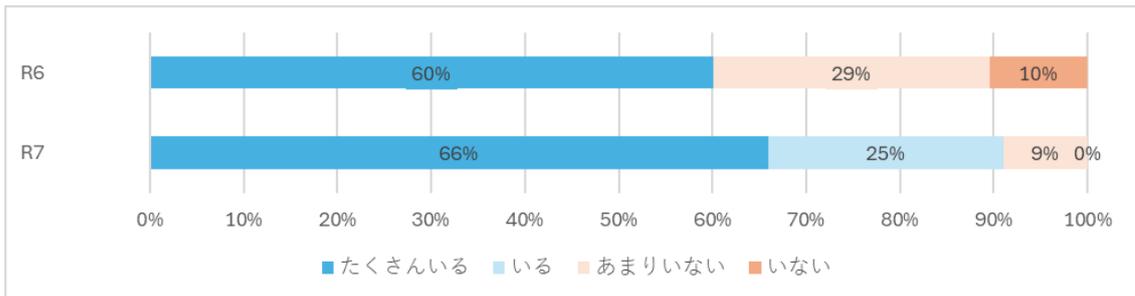
※全校では、昨年度と比べ、大きく向上している。

・生徒②【いろいろなことを相談できる友だちはいますか。】



※昨年度より、肯定率が増加している。

・生徒⑩【困ったことがあったら、相談できる先生がいますか。】

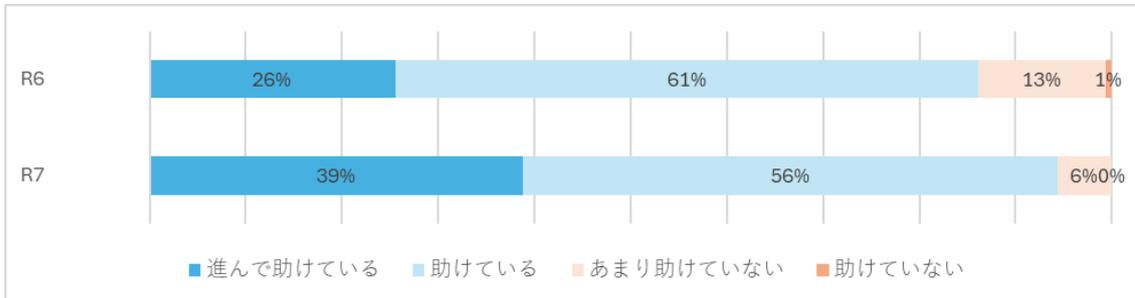


※昨年度より、いるという肯定的回答が増えている。

※R6年度の関連項目のA評価とB評価の合計による比較

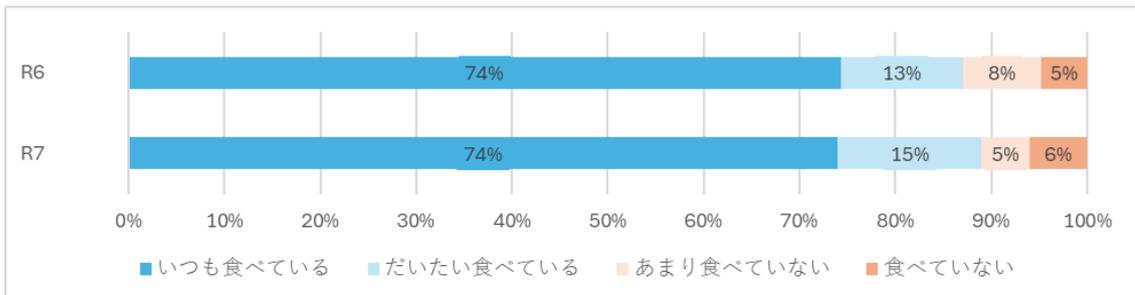
※関連項目では、保護者は肯定的回答が昨年度の68%から82%に増加している。

・生徒③【人が困っているときは、進んで助けていますか。】



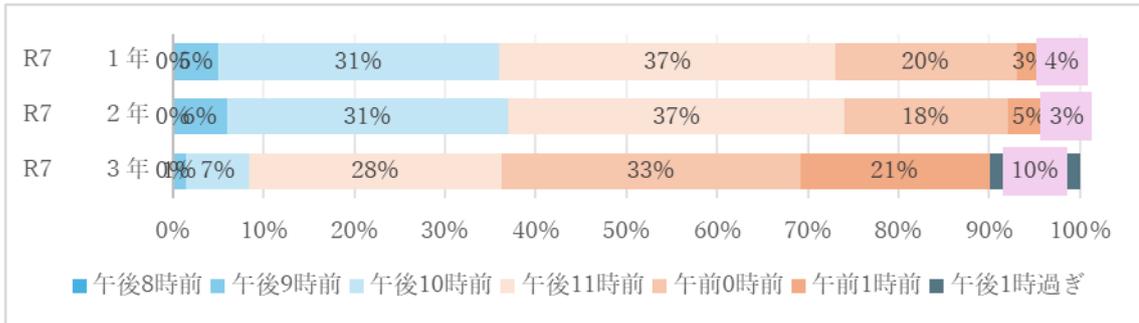
・全校94%がAB評価で、昨年度より向上している。

・生徒⑭【朝ごはんを食べて登校していますか。】

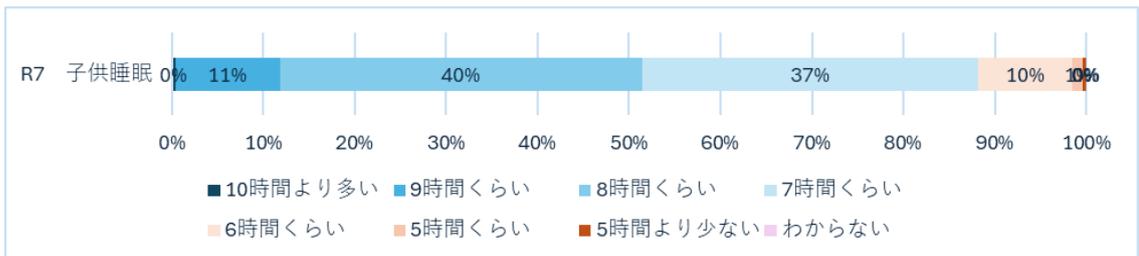


※昨年度と同様の結果である。

・生徒⑳【月曜から金曜日までは、何時くらいに寝ていますか。】



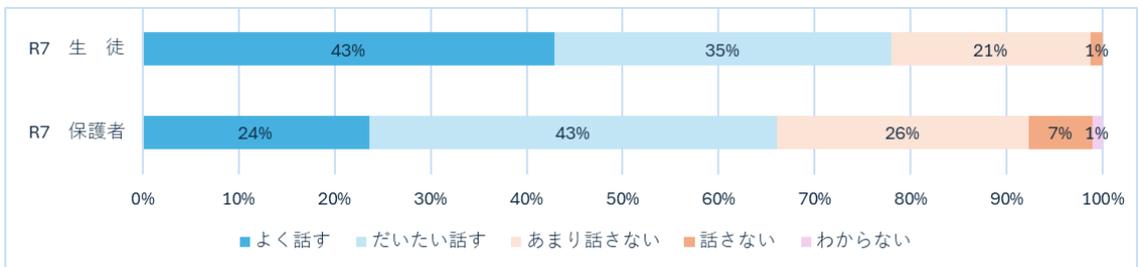
・保護者㉔【子供の平均睡眠時間はどれくらいですか。】



※保護者は全体集計で7～8時間 37%、8時間以上 51%と答えているが、生徒の中には、0時以降に就寝と回答している生徒が1年生 7%、2年生 8%、3年生 32%いる。例年と同じで生徒は保護者が考えているほど睡眠をとっていない。

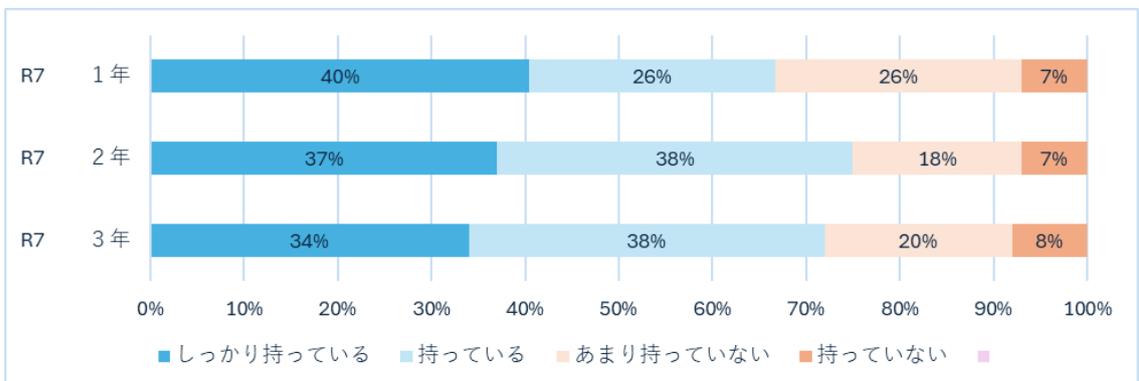
・生徒㉒【家の人と学校での様子を話していますか。】

・保護者㉔【学校の出来事をよく話しますか。】



※全体の2割程度の生徒が、家の人と話をしていない状況にある。

・生徒㉗【将来の夢や希望をもっていますか。】



※夢や希望については、全学年 71%が AB 評価である。

改善策

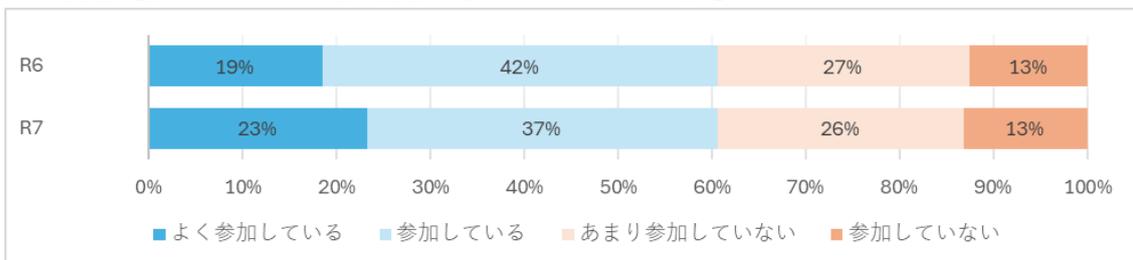
- ・生徒①【学校は楽しいですか】、生徒②【いろいろなことを相談できる友達がありますか】において昨年度同様肯定的な AB 評価は高い。ハイパーQU を活用し、生徒一人一人の状況を確認しながら、学年職員や担任が指導の手立てとしている。いじめや不登校の未然防止や早期発見早期解決につなげるためにも、各学期 1 回の『いじめアンケート』や、『生活アンケート』も実施し、早期対応ができるよう取り組んでいる。日ごろから生徒に寄り添う指導を担当だけでなく、学年組織として取り組むことにより、『楽しい学校』を目指して、生徒同士、生徒と教職員との関係が良好で、安心して生活することができる玉幡中学校を目指して、今後も様々な取組を行っていききたい。
- ・生徒⑫【困ったことがあったら、相談できる先生がいますか】において、昨年度より数値が 10% 以上良くなっている。教師と生徒の相互理解が進んでいると考えられる。今後も良好な関係づくりを積み重ね、教師自ら問題の早期発見や生徒から気軽に相談できるよう、日頃の声かけ活動や連絡ノートによる生徒の状況把握、二者懇談等を活用して取り組んでいきたい。これらの取組から、問題となる、また問題となりそうな事例を迅速に把握し、速やかに学年会議や職員会議、生徒指導部会、生徒理解部会などでその状況を共有し、迅速に相互に情報交換を行っている。また、事例によっては外部機関との連携を行い、よりよい解決を図ってきた。その結果、問題が大きくなる前に解決したり、問題が更に大きい事になってしまったりということを未然に防いでいる。
- ・生徒⑬【朝ごはんを食べて登校していますか】については、11% の生徒が否定的な回答であった。食育について理解と協力を得られるにしていかなければならない。
- ・生徒⑭【月曜から金曜日までは、何時くらいに寝ていますか】9~12 時が多いが、12 時を過ぎる生徒も 16% も存在している。生活のリズムの崩れが、睡眠時間や朝食の摂取に大きくかわることが考えられるので、家庭と協力して、睡眠・食育・ストレス対応等にに取り組んでいかなければならない。
- ・生徒⑮【将来の夢や希望をもっていますか】について、全校生徒の 71% が AB 評価である。今後もキャリア教育や道徳の時間を活用して、生き方教育や心の教育を推進し、より多くの生徒が、夢や希望をもって生き生きと生活できるよう支援をしていきたい。

V 地域との連携について

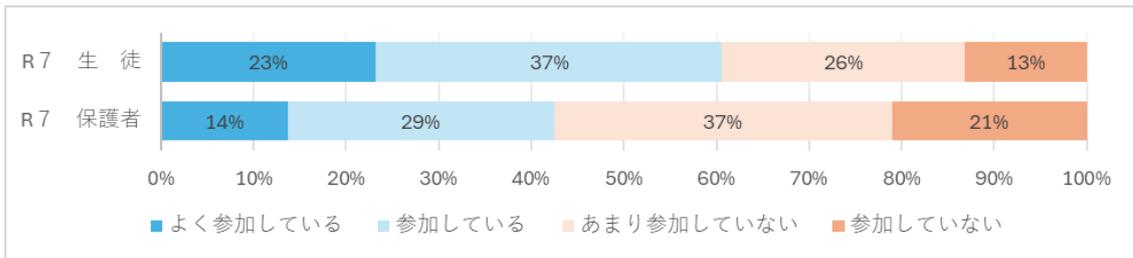
達成状況

- ・ 6 項目のうち 2 項目が A B の評価で 100% であり、3 項目も A B の評価は 88% 以上と高い肯定率である。
- ・ 教師⑯【あなたの学校は、学校の教育活動について、たよりやホームページを通して保護者や地域に広報している。】は、A 評価が最頻値であった。

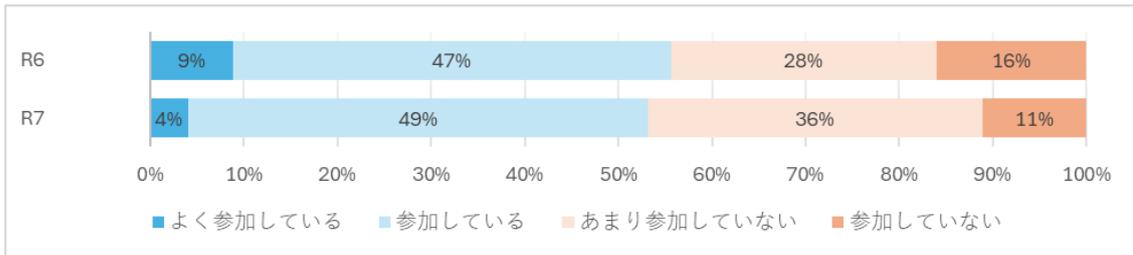
・ 生徒⑯【住んでいる地域の行事に参加していますか。】



- ・生徒②⑥【住んでいる地域の行事に参加していますか。】
- ・保護者②⑥【お子さんは今住んでいる地域の行事に参加していますか。】



- ・保護者③【PTA 活動に参加していますか。】



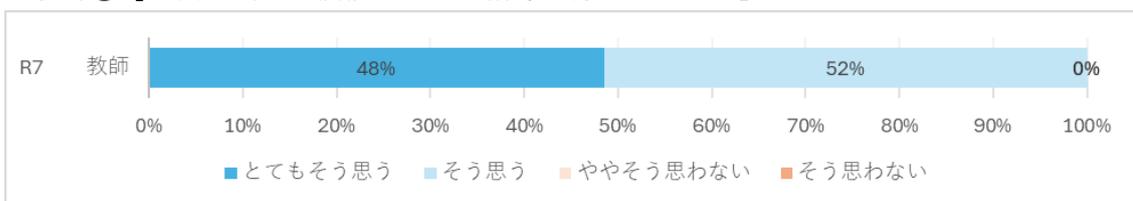
改善策

- ・保護者③【PTA 活動への参加】状況は、ほぼ昨年度と同様である。より参加しやすい方法とを検討していく。
- ・学園祭では、文化の部、体育の部ともに、生徒が事前の取組や活動の成果を披露した。今後も、年間計画に沿った授業参観や学校開放を実施していき、開かれた学校づくりを推進していきたい。
- ・教職員②⑥【地域の人材や施設を活用し地域の教育力を活かす指導】については、70%が肯定的回答をしている。職場体験や人権教室など活用しているが、地域の力を今後も活用できるように検討していく。
- ・授業参観・学校開放・激励会・学園祭・給食試食会・教育講演会など、多くの保護者に参加してもらうことができた。
- ・地域の人材の活用について、今後も学校運営協議会や学校関係者評価委員会等で地域や保護者の声を活用し、地域人材をより活用したり、地域からの要望を聞いたりできるように、保護者への協力をお願いしていきたい。

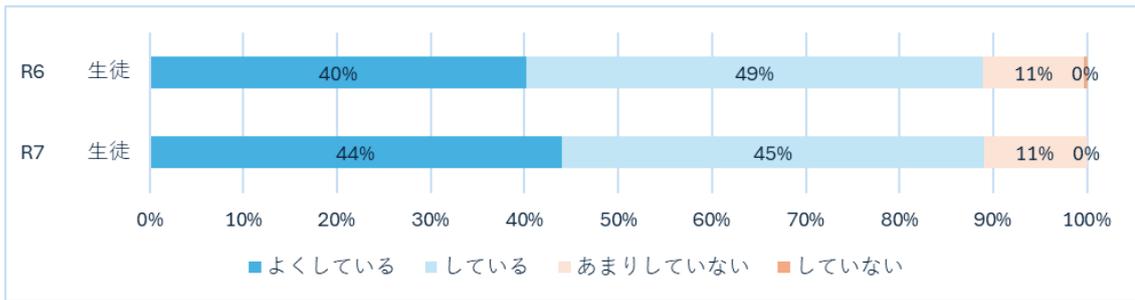
VI 学校の特色に関して

達成状況

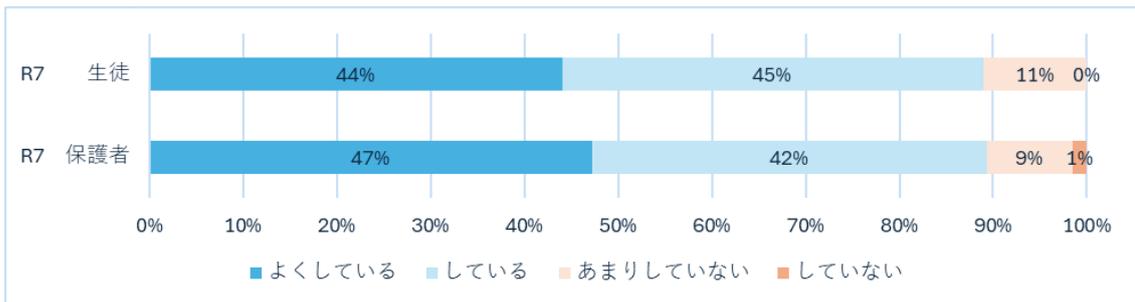
- ・4項目のうち2項目がABの評価が100%であり、残り2項目も94%と非常に高い肯定率である。
- ・教師③⑨【生徒が進んで挨拶するよう指導に努めている。】



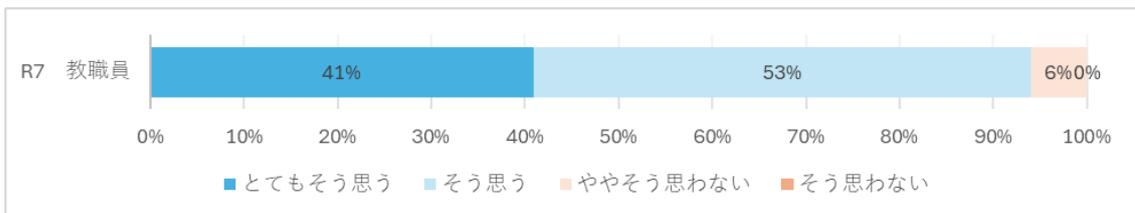
・生徒⑳【誰とでも挨拶をしようとしている。】



・保護者㉑【お子さんに進んで挨拶をするように言っていますか。】



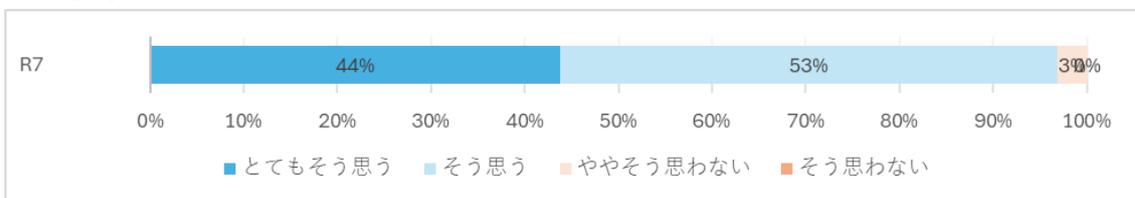
・教師㉒【生徒が意欲的に読書活動に取り組むよう、指導に努めている。】



・生徒㉓【月曜日から金曜日までは家や図書館などで一日あたりどのくらいの時間読書を読みますか。】

※「全くしない」割合が全体で37%であり、昨年度の42%より改善傾向にある。

教師㉔【あなたの学校は、生徒と教師の信頼関係は良好である。】



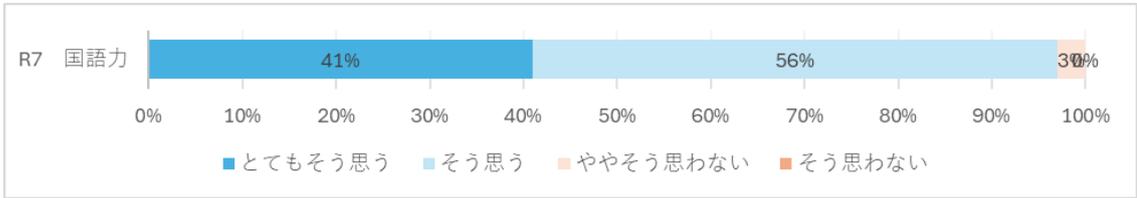
改善策

- ・教師⑳【生徒が進んで挨拶するよう指導】に関しては、【教職員の登下校指導におけるあいさつ】【保護者や保護司のあいさつ活動】【生徒会によるあいさつへの取組】など、様々な活動を行っている。生徒の評価もおおむね肯定的である。今後も開かれた学校を目指し、継続して活動を進めていきたい。
- ・教師㉑【生徒が意欲的に読書活動に取り組むよう、指導に努めている。】図書館と連携しながら朝読書などを行っている。しかし、家庭での読書習慣については、全くしないが、昨年度の42%から37%改善傾向であるが、読書が習慣となっていない生徒は多い。携帯・スマートフォンへの依存率が高いと考えられるので、利用方法について家庭と協力しながら改善を進めていく。

VII 創甲斐教育について

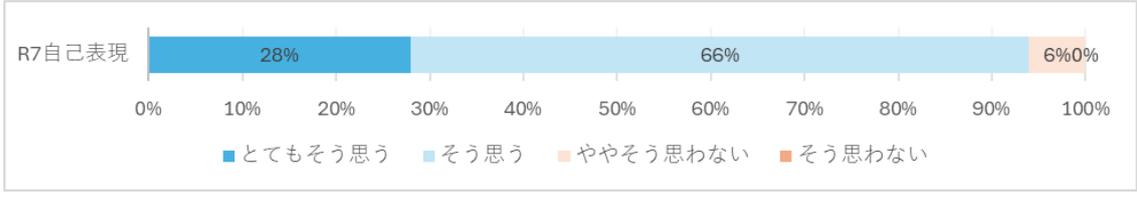
達成状況

- ・3項目ともにA Bの評価が91%以上と高い肯定率である
- ・㉒あなたの学校は、国語力の向上のための取り組みが行われている。



評価	割合
とてもそう思う	41%
そう思う	56%
ややそう思わない	3%
そう思わない	0%

- ・㉓あなたの学校は、自己表現向上のための取り組みが行われている。



評価	割合
とてもそう思う	28%
そう思う	66%
ややそう思わない	6%
そう思わない	0%

- ・㉔【あなたの学校は、体力向上のための取り組みが行われている。



評価	割合
とてもそう思う	28%
そう思う	66%
ややそう思わない	6%
そう思わない	0%

改善策

- ・国語力や自己表現の向上は、主体的・対話的で深い学びの授業実践に必要なことである。あらゆる授業の中の話し合い活動や発表活動の言語活動を通して、取り組んでいる。今後も職員全体で意識をした来年度以降も職員全体で意識を共有して取り組みを進めていきたい。
- ・体力向上については、県の中学校2年生の平均は、過去最高となっている。本校においても、保健体育の授業以外でも部活動に意欲的に意識して取り組んでいる。B評価を中心とした結果ではあるが、体力の必要性については感じている教師は多い。今後も生涯を通じて健康で生活できるように取り組んでいきたい。

3 まとめ<成果と課題>

- ・回答については、教職員・生徒・保護者とも肯定的回答が多くを占めている。この結果からも本年度の学校教育活動は、十分な成果があったと考えられる。
- ・生徒一人一人の学力向上に向けた実践や安心安全に過ごせる学級づくりに取り組むことができたと考えられる。
- ・これまでの結果や今年度の学校評価の結果を踏まえ、本校における課題や改善策を全教職員が共有し、学校運営の改善の取組を行っていく。特に授業や行事など様々な活動における活動を一人一人の振り返りをもとに、学校全体で新たな活動を仕組めるようにPDCAサイクルの実践を行い、学校教育活動の工夫・改善を全教職員で進めていきたい。
- ・校内研では【主体的に学び 他者と協働して 学ぶ喜びを味わえる生徒の育成】～「分かる」・「できる」～を実感できるICTを活用した授業づくりの取組～をもとに活動を行ってきた。ICT活用を取り入れた授業改善に取り組みつつ、生徒が学びの場を選択・決定しながら学習が進められるようになっている。また、家庭への持ち帰りやリモート学習での活用も進んでいる。今後も積極的な授業改善を行っていく。
- ・今年度より、アンケートの集計方法がマークシート方式から、フォームを使っでの回答となっている。基本的には、同じ項目を設定し回答を得ているが、若干、昨年度までとは違う値が出てきている。今後、この回答方式を続けることで、回答内容の精度が上がると考える。